

図書館展示5月●2006年

ウォルト・ディズニー ～アニメーションと音楽の世界～

企画●布施美恵子 (国立音楽大学音楽学学科4年)

期間●5月15日-6月17日

場所●図書館ブラウジングルーム / AV資料室

ウォルト・ディズニー

～アニメーションと音楽の世界～



ウォルト・ディズニー (Walt Disney 1901-1966) は、アニメーション界に数多くの作品を残した。アメリカや日本に限らず、世界中で彼の名を知らない人はほとんどいないだろう。ウォルトは、ミッキーマウスの生みの親であり、『白雪姫』や『ファンタジア』といった長編アニメーション映画を制作した人物である。また、テレビ界にも進出し、ディズニーランドというテーマパークも建設した。

ディズニーは、アニメーション、ディズニーランドというようなあらゆる方面で芸術を創り出し、現在でも多くの人々を魅了している。

今回の展示では、ウォルトが生存中に手がけた作品(蒸気船ウィリーからジャングル・ブック)に焦点を当て、そのアニメーションと音楽の世界について迫ってみたいと思う。

Contents

ウォルト・ディズニーの生涯・・・2

アニメーション・・・3

・蒸気船ウィリー・・・3

・シリィ・シンフォニー・・・3

・長編アニメーション映画・・・4

ディズニーの音楽・・・13

展示資料紹介・・・15

・図書・楽譜・映像

企画・構成 布施美恵子 (国立音楽大学音楽学学科 4年)

ウォルト・ディズニーの生涯

ディズニーの誕生

ウォルター・イライアス・ディズニーは、1901年12月5日アメリカ・イリノイ州・シカゴで父イライアス・ディズニーと母フローラル・コール・ディズニーの4男として生まれた。家族は兄妹4人の7人で、8歳違いの3番目の兄ロイは、ウォルトとともにディズニー王国を築き上げる人物である。

父のイライアスは当時大工をしていたが、それまでも様々な職業を転々としていた。農業にはじまって機械工、郵便配達、ホテル経営など様々な職についたがどれもうまくいかず、暮らしは豊かではなかった。ウォルトは4歳までシカゴで育ったが、1906年4月には、ミズーリ州の田舎町であるマーセリンに移住し、農場経営を始める。その後8歳のときに、イライアスが病にかかったことから、カンザスシティへ移り、この頃から漫画を書き始める。ウォルトはチャーリー・チャップリンが大好きで、小学校の時に物まねを演じて賞をとったという記録もある。15歳の時に彼は漫画家になる決心をする。高校生だったウォルトは、優れた美術の才能を発揮し、校内誌「声(ヴォイス)」に挿絵を書くなど、漫画家として活躍した。1918年、彼は年齢を偽って第一次世界大戦に参戦しフランスに渡る。翌年帰国したウォルトは、アート・スタジオの見習いをし、そこでアブ・アイワークス Ubbe Iwwerks に会う。そして、1920年に2人は「アイワークス・ディズニー」を設立するが、一ヶ月で倒産してしまう。その後「カンザスシティ・スライド社」へ入社する。ディズニーは1920年からアニメーションの制作に取り掛かり、最初はカンザスシティの映画館向けのCM作りをし、22年には短編「赤ずきん」を制作して独立し、「ラフォグラム・フィルム社」を設立して数本のおとぎ話を作ったが、まもなく倒産した。しかし、実写とアニメの合成の「アリス・コメディシリーズ」が認められ、24年にはハリウッドに「ディズニー・ブラザーズ・スタジオ」をロイとともに設立、本格的にアニメ映画を作り始めたのである。26年、シリーズ「しあわせウサギのオズワルド」が大ヒットするが、著作権を奪われる。しかし、これがきっかけとなってミッキー・マウスが誕生した。

28年、アニメ初のトーキー「蒸気船ウィリー」が公開され、ミッキーがデビューした。29年には「骸骨の踊り」を手始めに「シリー・シンフォニー」シリーズを開始する。30年代はキャラクターシリーズ及び「シリー・シンフォニー」の時代である。「シリー・シンフォニー」で様々な表現要素の実験を試みた。初のカラーアニメーション「花と木」がアカデミー賞を受賞する。33年には、「三匹の子ブタ」がアカデミー賞を受賞、35年にはキャラクター、ドナルド・ダックも誕生した。37年、世界初のカラー長編アニメーション映画「白雪姫」が制作される。その後「ピノキオ」「ファンタジア」「ダンボ」など多くの長編アニメ映画が次々に制作されることになる。50年代には、「シンデレラ」「不思議の国のアリス」「ピーター・パン」「眠れる森の美女」が制作される。54年からディズニーランド建設とテレビ進出が始まり、55年にはカリフォルニア州アナハイムにディズニーランドが開園し、ウォルトの興味・関心もアニメーションからテーマパークに移っていく。

60年代(66年死去)にウォルトが最も熱中したのが、「ディズニーランド」と「ディズニー・ワールド」である。数々の作品を手がけたウォルトであったが、1966年に身体の痛みを訴えるようになり、同年12月15日肺癌のために死去した。その後、71年、フロリダに「ディズニー・ワールド」、83年に「東京ディズニーランド」、92年パリに「ディズニーランド・パリ」、2005年、香港に「ディズニーランド」がオープンするなど、ウォルトの意志は現在でも継承されている。

アニメーション

ウォルトは 1920 年からアニメーションの制作に取り掛かり、実写とアニメの合成した『アリス・コメディ』シリーズや『しあわせウサギのオズワルド』(Oswald the Lucky Rabbit)などの作品を世に送り出した。しかし、オズワルドの著作権を奪われてしまい、次のキャラクターとして『ミッキーマウス』を生み出したのである。この後、ウォルトは『蒸気船ウィリー』を手始めに、1927 年の『ジャングル・ブック』まで数多くの作品を手がけることになる。ここでは、ウォルトが 1928 年から亡くなるまでの 1928 年に手がけた主要作品を中心に紹介したいと思う。

『蒸気船ウィリー』(Steamboat Willie) 1928 年制作

あらすじ:ミッキーは川を下る蒸気船の船員役。船の船長はミッキーの永遠のライバルとなるヤマネコのペグレブ・ピート。この物語の中でミッキーとミニーマウスは、色々な楽器を奏でる。蒸気船の積荷を利用して、華麗に口笛を吹き、『わらの中の七面鳥』(Turkey in the Straw)を披露する。

背景:当時の映画は音の付いていないサイレント映画が主流だった。そこで、ウォルトは音をつけた音声を純粋に物語の一部として組み込もうと考えた。つまりトーキー映画を制作しようと考えたのである。ウォルトとスタジオのスタッフは、メトロノームを使い、音のリズムとアニメのコマが一致するように音楽を加えた。ミッキーの声はウォルトが担当した。その後 20 年間、ウォルトはミッキーの声を演じ続けることになる。こうして、ミッキーは 1928 年 11 月 18 日にマンハッタンのコロニー劇場でデビューした。公開された『蒸気船ウィリー』は、音と動きがぴったりと合っていた。この後、ミッキーは人気者になり、『プレーン・クレイジー』(Plane Crazy 1928)『ギャロッピング・ガウチョ』(Gallop in Gaucho 1928)が公開された。ウォルトは 1930 年代のはじめに、ミッキーマウスを作り出した功績が認められアカデミー賞特別賞を受賞した。ミッキーは百数十本の短編映画に出演し、1940 年の長編映画『ファンタジア』では魔法使いの弟子という大役を務めることになる。

シリー・シンフォニー (Silly Symphonies)

ウォルトは、1929 年、音楽をテーマにした実験的な短編アニメーション・シリーズである『シリー・シンフォニー』の制作に取り掛かっていた。

『骸骨の踊り』(The Skelton Dance) 1929 年制作

『シリー・シンフォニー』の第 1 作目として制作されたのが『骸骨の踊り』である。オルガン奏者であるカール・ストーリング(Carl Stalling 1888-1974)の案で骸骨が墓場でタップダンスをしたりして、ドンちゃん騒ぎをするという物語だった。カール・ストーリングが音楽を作曲し、アブ・アイワークスがアニメーションを描いた。この作品は大ヒットし、このシリーズは人気を得た。

『花と木』(Flowers and Trees) 1932 年制作

シリー・シンフォニーの第 29 作目として発表されたのが『花と木』であった。2 本の木が恋に落ちる物語である。ディズニーは、テクニカラー社と契約を結び、三色方式のカラーフィルムを使ってこの

作品を仕上げた。こうして、この作品は初のカラー作品となり、アカデミー賞を受賞した。

『三匹の子ブタ』(Three Little Pigs) 1933 年制作

あらすじ：三匹の子ブタの兄弟がそれぞれ家を建てる。1 番上の兄は藁の家を、2 番目の兄は木の家を、弟は煉瓦を積み重ねて立派な家を建てた。そこに狼がやってきて、2 人の兄の家は吹き飛ばされてしまう。兄たちは弟の家に逃げ込み、狼を退治し、(狼なんてこわくない)を歌う。

背景：ウォルトはしっかりとしたストーリーやキャラクターを使った作品を作りたいと考えていた。そこで考えられたのがイギリスの民話だった。この作品は大成功を収め、アカデミー賞を受賞した。

音楽：(狼なんてこわくない) (Who s Afraid of the Big Bad Wolf?)

作詞/作曲：フランク・チャーチル(Frank Churchill 1901-1942)

この曲は誰もが1度は聞いたことがあるだろう。三匹の子ブタが笛、ヴァイオリン、ピアノを演奏しながら、歌う曲である。この曲が発表された当時、アメリカは不況だった。そのような状況の中で、この映画は大成功を収め、このテーマソングも大ヒットした。

この曲を作曲したチャーチルはメキシコでピアノを弾いたり、ロサンゼルスでラジオ局で演奏を披露したりして、経験を積んだミュージシャンの青年だった。ウォルトがチャーチルを作曲者として雇った経緯は不明であるが、ウォルトに出会ったことでそれまで無名だったチャーチルは、数々の名曲を生み出す作曲家になったのである。

長編アニメーション映画

「シリー・シンフォニー」は『骸骨の踊り』に始まり『みにくいアヒルの子』で幕を閉じた。1929 年から約 10 年間で 75 本が制作された。この後、ウォルトは長編アニメ映画の制作に取り掛かる。

『白雪姫』(Snow White And the Seven Dwarfs) 1937 年制作 請求記号 VD3367

あらすじ：主人公の白雪姫は嫉妬深い継母に命を狙われ、殺されかけるが、7 人の愉快な愛らしい小人たち (先生(ドック)・おこりんぼ(グランピー)・くしゃみ(スノージー)・ねぼすけ(スリーピー)・てれすけ(パッシュフル)・ごきげん(ハッピー)・おとぼけ(ドービー)) に助けられ、王子と結婚する。

背景：ウォルトが、1934 年から 1937 年に制作した世界初のカラー長編アニメ映画である。「シリー・シンフォニー」の制作を終えたウォルトは、もっと大規模な映画を制作したいと考え始めた。短編では、収益が上がらないなどの経済的な理由もあったが、誰もが知っている童話を題材にして、人間の心情や笑いをアニメによって描き出したかったのである。白雪姫の計画を明らかにした時、ハリウッドの中では、83 分もの長い映画に付き合う人などいないという批判的な意見もあった。

ウォルトが長編アニメ映画の題材として考えたのが、グリム童話の『白雪姫』だった。なぜ『白雪姫』を選んだのだろうか。その理由については定かではないが、カンザスシティで新聞配達の仕事をしていた時に、『白雪姫』の実写版を見たことがあり、その映画に魅せられたことから、『白雪姫』を題材に選んだと言われている^(注)。こうして、1934 年に『白雪姫』の制作に取り掛かり、1937 年まで、スタジオは発展し続けた。最初は約 200 人のスタッフだったが、3 年

後には 1000 人を超えた。連日会議が開かれ、ウォルトは自分の考えを伝え、スタッフの仕事
を厳密にチェックした。音楽も物語にしっかり溶け込むように何度も作り直され、人間の体の
動きを正確に描くために実際の人間の動きを観察して、それをアニメにした。制作費 150 万ド
ルを費やして完成した『白雪姫』は 1937 年 12 月 21 日にロサンゼルスのカーク・サークル
劇場で初演を迎えた。『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』の映画評論家は、この作品を次
のように評価した。

「『白雪姫』を三度見たあと、私はこれが数少ない偉大な映画……観客を魅了して離さず……
忘れがたい、深い感動をもたらしてくれるすばらしい芸術性を備えた、まれに見る傑作の一つ
だと、ますます確信した」
(マーク・エリオット著『闇の王子ディズニー上』173 頁より)

このように、この映画は最高の賛辞で迎えられ、アカデミー特別賞を受賞した。

(注 ポブ・トマス著『ウォルト・ディズニー』151 頁参考)

音楽：(いつか王子様が) (Some Day My Prince Will Come)

作詞：ラリー・モリー (Larry Morey) 作曲：フランク・チャーチル (Frank Churchill)

この曲は、白雪姫が歌う歌の中で最も有名な曲である。継母にいじめられながらも、いつか
王子様が白馬に乗って迎えに来てくれるという熱い思いが歌われている。この曲は森の中へ
逃げた白雪姫が 7 人の小人達に出会い、歌い踊ってくれたお礼に白雪姫が歌う曲である。
白雪姫の声優を担当したのは、イタリア・オペラ教育を受けた 18 歳のエイドリアーナ・カセロッ
ティ (Adriana Caselotti 1916-1997) である。『白雪姫』の制作にあたり、チャーチルによって、
全 25 曲の曲が書かれたが、実際に使われたのは 8 曲だった。その 8 曲のうち(いつか王子様
が) (ハイ・ホー!) (口笛吹いて働こう) はラジオとレコードで大ヒットした。

『ピノキオ』 (Pinocchio) 1940 年制作 請求記号 VD3520-3522

あらすじ：ある日、木彫り職人のゼペットさんは木製の操り人形を作り、その人形をピノキオと
名付け、「本当の子どもにしてください」と星に祈る。ある晩、その願いを聞き入れた妖精がピ
ノキオに命を吹き込む。正直で勇気があれば、本当の人間の子供になれると教えられたピノ
キオは、こおろぎのジミニー・クリケットとともに冒険の旅に出る。そして試練を乗り越えたピノ
キオは、人間の子供になる。

背景：『白雪姫』で大成功を収めたウォルトは、1940 年、イタリアの作家カルロ・コロッディ
(Carlo Collodi 1826-1890) の童話を題材にして 2 作目の長編アニメ映画を制作する。しかし、
『ピノキオ』には、『白雪姫』の時のように人々の心をつかむキャラクターがいなかった。半年後、
ウォルトは制作の一時中止を決めた。そこで、キャラクターの問題を解決するために、原作で
はほんの脇役にも過ぎなかったこおろぎのジミニー・クリケットに良心役を与えた。そして、クリ
ケットは(星に願いを)を歌う役も与えられた。この作品が公開のされた時が第二次世界大戦
中だったこともあり、この作品は赤字に終わったが、その芸術の高さからディズニー映画の中
でも最高傑作と言われている^(注)。

(注 クリストファー・フィンチ著『ディズニーの芸術』59 頁参考)

音楽：〈星に願いを〉(When You Wish Upon a Star)

作詞:ネッド・ワシントン(Ned Washington 1901-1976)作曲:リー・ハーリン(Leigh Harline1907-1969)

ディズニー映画の中で、〈星の願いを〉は最もよく知られている曲といえるだろう。こおろぎのジミニー・クリケットがオープニングで歌うこの曲は、私たちを物語の世界に導いてくれる。この曲はアカデミー主題歌賞と作曲賞を受賞した。曲の内容は以下の通りである。

「あなたが星に願いをかけるとき あなたが誰であるかは問題でなくなる
あなたの心が望むことは 何でもあなたのものになる
あなたの心があなたの夢のなかにあるならば どんな願いも大きすぎることはない
あなたが夢見る人のように 星に願いをかけるとき
運命の女神は心優しい 彼女は愛を知る人々に 秘密の願いを甘く叶えてくれる
突然の稲妻のように 運命は割り込んで来て あなたを救い出してくれる
あなたが星に願いをかけるとき あなたの夢は叶えられる」
(能登路雅子著『ディズニーランドという聖地』118 頁より)

『ファンタジア』(Fantasia)1940 年制作 請求記号 VD944-945

背景:ウォルトはミッキーマウスの人気が落ち、ドナルドの人気が高くなってきたと感じ、ミッキーの人気を取り戻そうとしていた。そこで、ウォルトはポール・デュカ(Paul Dukas 1865-1935)の交響詩『魔法使いの弟子』(The Sorcerer's Apprentice)を題材にして音楽短編アニメをミッキーマウス主演で制作しようと考えた。そして、レオポルド・ストコフスキー(Leopold Stokowski 1882-1977)に協力を依頼したウォルトは、アニメーションとクラシック音楽の融合という「コンサート映画」をテーマにした長編アニメ映画の制作に取り掛かる。当初、この作品は短編映画の予定だったが、短編では採算が合わないので、8つの短編から構成される長編アニメ映画になった。選ばれた曲は次の8曲である。

- 1.J.S.Bach(1865-1750)〈トッカータとフーガ/ニ短調 Tocata and fugue in D minor〉
- 2.P.I.Tchaikovsky(1840-1893)〈くるみ割り人形 The Nutcracker〉
- 3.Paul Dukas(1865-1935)〈魔法使いの弟子 The Sorcerer's Apprentice〉
- 4.I.F.Stravinsky(1882-1971)〈春の祭典 The Rite of Spring〉
- 5.Ludwig van Beethoven(1770-1827)〈田園交響曲 The Pastoral Symphony〉
- 6.Amilcare Ponchielli(1834-1886)〈時の踊り Danza dell'ore〉
- 7.M.P.Mussorgsky(1839-1881)〈禿山の一夜 Night on Bald Mountain〉
- 8.Franz Schubert(1797-1828)〈アヴェ・マリア Ave Maria〉

指揮:レオポルド・ストコフスキー
演奏:フィラデルフィア交響楽団

スタッフはクラシック音楽を視覚化するという初の試みに挑戦した。〈魔法使いの弟子〉は、師匠の留守中に魔法の帽子をかぶり自己流の魔法を繰り出したミッキーが魔法をコントロールできなくなり、師匠に叱られてしまうというストーリーで、ミッキーが生涯の中で最も活躍するシーンになった。ミッキーがデュカの曲に合わせながらパントマイムと描写的な音楽だけで構成されるという趣向になっていて、この作品の見所となっている。ストラヴィンスキー(Igor Stravinsky 1882-1971)のバレエ音楽〈春の祭典〉は「天地創造」と解釈され、地球の誕生と恐竜時代を表現した。ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven 1770-1827)の〈交響曲第六番 /

田園)ではギリシャ神話を表現し、アミルカレ・ポンキエツリ(Amilcare Ponchielli 1834-1886) (時の踊り)では、カバ、ゾウ、ダチョウ、ワニなどが陽気にダンスをするシーンを描いた。

『ファンタジア』は音楽だけで台詞や効果音がなく、他のディズニー作品と少し異なるユニークな作品となったが、戦時中ということもあり初公開は失敗に終わった。この作品が高く評価されるようになったのは、1970年代を過ぎてからになる。

『ダンボ』(Dumbo)1941年制作 請求記号 VD386

あらすじ:生まれつき耳が大きかった主人公のダンボは、その耳の大きさのせいでいつもいじめられてばかりだった。そんなダンボがネズミのティモシーに勇気づけられ、空を飛べるようになり、サーカス座のスターになる。

背景:『ファンタジア』の制作を終えたウォルトは、従来のストーリー性に戻り、『ダンボ』の制作に取り掛かった。『白雪姫』は大成功を収めたが、それに比べて『ピノキオ』『ファンタジア』は不評だった。そこで、ウォルトはシンプルなストーリーで、比較的短めの作品を作ろうと考えた。この作品のテーマは「親子の絆」だった。ダンボは言葉を発しないキャラクターに設定された。そうすることで、感情をすべて動作で表現し、より観客に感情を訴える作品にしたのである。『ダンボ』は「他人より変わっていることはおかしくない」ということを教えてくれる作品である。64分の作品に仕上がったこの作品は、1941年10月31日に公開され、一夜で大ヒットとなった。スタッフも少人数で、特殊な技術も使わなかったため、制作費もかからず、収益も多かった。

音楽:(ダンボのテーマ~私の赤ちゃん)(Dumbo Theme~Baby Mine)

作曲:ネッド・ワシントン(Ned Washington)作曲:フランク・チャーチル(Frank Churchill)

ダンボがいじめられているのをかばって、檻に入れられたジャンボ母さんのところに、ダンボがティモシーに連れられて会いに行く。ダンボとジャンボ母さんが、檻の間からお互いの鼻を伸ばし、親子の愛を確かめ合う。そこで、ジャンボ母さんがダンボを抱えながらこの曲を歌う。この作品のテーマである「親子の絆」が最も表れているのが、このシーンである。

『バンビ』(Bambi)1942年制作 請求記号 VD1846

あらすじ:春の森に生まれた小鹿のバンビは、仲間たちと一緒に新しい発見をしながら大きく成長していく。色々な経験をしながら、バンビは森の王様になる。

背景:1936年、ウォルトは『バンビ』の制作に取り掛かった。原作はオーストリアの作家フェリックス・ザルテン(Felix Salten 1869-1945)の動物小説だった。登場人物は動物と植物のみで、人間は登場しない。そのため、自然と動物を写実的に描くことは課題となった。その課題を解決するために、アニメーターたちは本物の動物をスタジオに連れてきて観察した。1枚1枚正確に原画を書くのに、かなりの時間がかかり、制作が思うように進まなかった。そのため、『バンビ』は6年を要して完成した。

こうして、長編アニメ映画である『白雪姫』『ピノキオ』『ファンタジア』『ダンボ』『バンビ』の5つの作品が1937年から42年の間に公開された。この時期はディズニーアニメ映画の黄金時

代とも呼ばれている時代である。この後、第二次世界大戦の勃発に伴い、ディズニースタジオも一つの区切りをつけることになる。徴兵制度によりスタジオの人員も減り、経済的にも苦しい状況に置かれ、スタジオは戦時中いくつかの短編映画を作るのみで大きな作品は作らなくなる。

音楽：(愛のうたごえ) (Love Is a Song)

作詞：ラリー・モリー (Larry Morey) 作曲：フランク・チャーチル (Frank Churchill)

生まれたばかりのバンビと美しい森の風景をバックにこの曲が流れる。『バンビ』のオープニング曲である。

『南部の唄』 (Song of the South) 1947 年制作 請求記号なし

あらすじ：父親の仕事上のトラブルで両親が別居してしまい、母親の実家である南部の農場で暮らす事となった少年ジョニー。いつもいじめられてばかりのジョニーを元気づけようと、近所の農場で働くリーマスおじさんは、ウサギどんとキツネどんとクマどんの冒険談を聞かせる。

背景：1947年、ウォルトは『南部の唄』を制作した。ジョエル・チャンドラー・ハリス (Joel Chandler Harris 1848-1908) の『リーマスおじさん』を題材にした作品で、実写7割とアニメ3割からなる実写映画だった。ウォルトにとっては新しい試みの作品となった。1947年度のアカデミー賞では、リーマスおじさんを演じたジェームス・バスケット (Jamus Baskett 1904-1948) が特別賞を受賞した。しかし、この作品には黒人を描写する部分があり、黒人差別問題から1986年以降、ディズニーの自主規制により、この作品は再公開されることはなくなった。

音楽：(ジッパ・ディー・ドゥー・ダー) (Zip-A-Dee-Doo-Dah)

作詞：レイ・ギルバート (Ray Gilbert 1912-1976) 作曲：アリー・リューベル (Allie Wrubel 1905-1973)

この曲は、リーマスおじさんがお話を始める時に歌う曲である。ディズニーランドのアトラクション「スプラッシュ・マウンテン」で流れている曲としてよく知られている。また、舞浜駅の京葉線の下りホームの発車ベルとしてこの曲が使われている。明るく、リズムカルでメロディーもシンプルなので、思わず口ずさんでしまうような曲である。アカデミー賞主題歌賞を受賞した。

『シンデレラ』 (Cinderella) 1950 年制作 請求記号 VD1557

あらすじ：主人公のシンデレラは、継母や姉たちからいじめられながらも、いつか夢が叶い、幸せになれると信じて暮らしていた。ある時、妖精のおばあさんが現れ、「ビビディ・バビディ・ブー」と魔法の言葉をかけると、シンデレラはまばゆいドレスを着た姿に変身する。そして、お城で王子と夢のような時を過ごす。しかし、夜の12時を過ぎるとその魔法はとけてしまう。王子様はシンデレラの残したガラスの靴を頼りに国中を捜し、ついにシンデレラを見つけ、2人は幸せに暮らす。

背景：1950年、ウォルトは『シンデレラ』で長編アニメ映画の制作を再開した。この作品は『白雪姫』に似た部分もあったが、世界でもよく知られている『シンデレラ』の話は、ストーリーも登場人物もしっかりとしていて、良い題材だった。『白雪姫』に比べて、技術的にもかなり発展し

た作品となっている。この作品は大成功を収め、経済的に苦しかったスタジオに好景気をもたらした。

音楽: 〈夢はひそかに〉 (A Dream Is Wish Your Heart Makes)

作詞/作曲: マック・デヴィッド (Mack David 1912-1993) アル・ホフマン (Al Hoffman 1902-1960) ジェーリー・リヴィングストン (Jerry Livingston 1909-1987)

シンデレラが物語の冒頭で歌う曲。「夢を信じ続ければ、いつか夢は叶う」という内容の曲で、シンデレラの気持ちをロマンティックに歌っている曲である。ディズニーランドで行われたイベント「シンデレラプレーション: ライツ・オブ・ロマンス」のテーマ曲にもなった。

『不思議の国のアリス』 (Alice in Wonderland) 1951 年制作 請求記号 VD532

あらすじ: ある日、時計を持った白ウサギに出会った少女のアリスは、そのウサギを追いかけ穴に飛び込む。そこは不思議の国。自分の体が大きくなったり、小さくなったり、トランプの兵隊、ハートの女王に追いかけられたりする。アリスは現実の世界に戻ることができるのだろうか。

背景: 『不思議の国のアリス』は 1933 年以來、ウォルトが長い間、映画化を夢見てきた作品だった。しかし、この作品はウォルト自身も認めたように、失敗作と言われている注)。5 年の歳月をかけてこの作品は完成したが、興行成績はあまり良くなかった。

(注 クリストファー・フィンチ著『ディズニーの芸術』79 頁より)

音楽: 〈きらめく昼下がり〉 (All in The Golden Afternoon)

作詞: ボブ・ヒリアード (Bob Hilliard 1918-1971) 作曲: サミー・フェイン (Sammy Fain 1902-1989)

この作品の中で使われた音楽は全部で 14 曲である。アリスの声はキャサリン・ボーモントが担当した。彼女はピーター・パンのウェンディの声優も勤めた。

アリスは不思議の国で花に出会い、一緒にこの曲を歌う。花が指揮をしたり、花自身が楽器となって演奏したりする。明るく、リズムカルな曲である。

『ピーター・パン』 (Peter Pan) 1953 年制作 請求記号 VB2690

あらすじ: 少女のウェンディ、弟のジョンとマイケル達は、ピーター・パンと妖精のティンカー・ベルに招待されて永遠に大人にならなくてもいい島、ネバーランドに行く。そのネバーランドには、人魚やインディアン、海賊のフック船長が住んでいた。

背景: 原作は 1904 年にロンドンで初演されたジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie 1860-1937) の戯曲である。1935 年から『ピーター・パン』の制作を考えていたウォルトは 1939 年に戯曲の著作権を得ていた。しかし、思うように制作が進まなかったために、延ばし延ばしになっていたのである。ディズニー・プロ創立 25 周年の記念作品でもあった。

音楽：(君も飛べるよ！) (You Can Fly! You Can Fly! You Can Fly!)

作詞：サミー・カーン (Sammy Cahn 1913-1993) 作曲：サミー・フェイン (Sammy Fain)

妖精のティンカー・ベルが杖を振り、金粉がウェンディたちを包み込むと空を飛べるようになる。

『わんわん物語』 (Lady and the Tramp) 1955 年制作 請求記号 VD3775

あらすじ：クリスマスに、ジムさんの家にやって来たコッカースパニエル犬のレディは、幸せに暮らしていた。そんな中、主人の留守中にレディは慣れない町へ飛び出し、野良犬のトランプに救われる。その後いくつかのトラブルに巻き込まれるが、最後には、ジムさんの家に戻り、トランプとの間に 4 匹の子犬が生まれる。

背景：主人公の犬たちにキャラクター性を持たせ、幻想の世界を描いた。原作はウォード・グリーンンの『口笛を吹く犬、陽気なダン』という作品である。この作品の中で、レディとトランプがレストランの裏でスパゲッティを食べるシーンは、ロマンティックなシーンとして知られている。『シンデレラ』と並び、この作品も大成功を収めた。初のシネマスコープ (ワイドスクリーン映画のひとつ) を使った作品だった。

音楽：(ララルー) (La-La-Lu)

作詞/作曲：ペギー・リー (Peggy Lee 1920-2002) ソニー・バーク (Sonny Burke 1914-1980)

この曲はレディの飼い主の子どものために歌われる子守唄である。

『眠れる森の美女』 (Sleeping Beauty) 1959 年制作 請求記号 VD454

あらすじ：魔法によって眠らされたオーロラ姫は、糸車の針に指を刺されて眠りについてしまう。王子がオーロラ姫にキスをして魔法はとかれ、2 人は結婚し、幸せに暮らす。

背景：『白雪姫』『シンデレラ』に続き、姫と王子の恋愛物の 3 作目として制作されたのが『眠れる森の美女』である。原作はシャルル・ペロー (Charles Perrault 1628-1703) の童話である。この時期、ウォルトはディズニーランドの建設やテレビ番組に取り組んでいる時期だった。それまでのディズニー映画はすべてウォルトがかかりきりで監督していたが、ディズニーランドの建設に追われていた彼は長編アニメ映画に集中することができなかった。そのため、本来のディズニーらしさを発揮することができなかったのである。この作品は『白雪姫』『シンデレラ』のような大成功を収めることができず赤字に終わった。

音楽：(いつか夢で) (Once Upon a Dream)

作詞/作曲：サミー・フェイン (Sammy Fain) ジャック・ローレンス (Jack Lawrence 1912-)

小鳥と歌うオーロラ姫を見かけた王子が現れ、2 人がこの曲を歌う。ロマンティックな 3 拍子のワルツの曲である。

『101 匹わんちゃん』 (One Hundred and One Dalmations) 1961 年制作 請求記号なし

あらすじ：ロンドンに住むロジャーとアニータの飼い犬であるダルメシアンの子犬とパディータの間に 15 匹の子犬が生まれる。それを知ったアニータの知人のクルエラは、コートを作ろうと子犬たちを誘拐する。ポンゴとパディータは子犬たちを探し、他にも捕まえられていた 99 匹の

犬に出会い、家に帰る。

背景:ウォルトにとって、現代を舞台とするはじめての作品だった。原作は、ドディー・スミス (Dodie Smith 1896-1990)の小説である。アブ・アイワークスが作り出した最新技術によって、現代的な映像を取り入れることができた。

音楽:(プレイフル・メロディー) (Playful Melody)

作詞:バイ・ダナム (By Dunham 1910-2001) 作曲:ジョージ・ブランス (George Bruns 1914-1983)

この作品のメインテーマ曲である。ポンゴを連れてロジャーとアニータを連れてパディータが出会うシーンでも使われた。

『王様の剣』(The Sword in the Stone)1963年制作 請求記号 VD3351

あらすじ:舞台は鉄床に突き立てられた剣を引き抜くことができた者が、次のイングランド国王になると語り継がれていた中世の頃である。魔法使いのマーリンはワート少年が未来の王様になると予言する。マーリンの魔法で魚や鳥、リスに変身したりして、「知恵こそが力」ということを学んでいく。そして、マーリンに帝王教育を受けたワートはイングランドの国王になる。

背景:原作は、T.H.ホワイト(T.H.White 1906-1964)の『石の中の剣』である。イギリスに古くから伝わるアーサー王伝説をディズニーがアニメ化した。

音楽:(ハジタス・フィジタス) (Higitus Figitus)

作詞/作曲:リチャード・M・シャーマン (Richard M.Sherman 1928-)

ロバート・B・シャーマン (Robert B.Sherman 1925-)

1960年から作曲が始められた。この曲は、マーリンが荷造りをする時に歌う曲で「ハジタス・フィジタス」という言葉は魔法の言葉である。

『メリー・ポピンズ』(Mary Poppins)1964年制作 請求記号 VD2305-2306

あらすじ:舞台は1910年のロンドン。さくら通り17番地のバンクス家では、子どものジェーンとマイケルの元気の良さにあきれて、突然乳母が出て行ってしまふ。新しい乳母としてやってきたのが、メリー・ポピンズ。彼女は、空を飛んで動物たちと話ができる乳母。煙突掃除人のパートと一緒に冒険の世界に行き、様々な体験をする。家族で過ごす時間の大切さを教えてくれる作品である。

背景:原作はトラヴァース(P.L.Travers 1899-1996)の童話である。娘のダイアンの部屋にあった本を読んだウォルトは、良い映画の題材になると思い、1944年に著作権を得るためにトラヴァースに会ったが、なかなか了承してもらえなかった。16年経った1960年にやっと了承を得た。主役のメリー役には、ジュリー・アンドリュース(Julie Andrews 1935-)が選ばれた。彼女の舞台を見たウォルトはすっかりジュリーを気に入ってしまい、起用することになった。この作品は『南部の唄』の時のように実写とアニメを融合させた作品に仕上げられた。1964年にハリウッドのグローマンズ・チャイニーズ劇場で公開されたこの作品は、最大の興行成績を

げた。多くの評論化がこの作品を褒め称えた。『ニューヨーク・タイムズ』は次のような記事を載せた。

「...見る楽しさ、聴く楽しさに彩られた、まさに珠玉の映画。見る者を酔わせる見事な作品構成、すこぶる愉快的なアニメーション、快活なテンポのダンス、生き生きとした音楽。ミュージックホールで今年上映された映画の中でもっともすぐれた作品である。」

(ボブ・トマス著『ウォルト・ディズニー』331 頁より)

このように、この作品は高く評価され、アカデミー賞の 13 部門にノミネートされ、ジュリー・アンドリュースは最優秀主演女優賞を受賞した。その他に、主題歌賞、作曲賞、編集賞、特撮視覚効果賞の 4 つの賞も受賞した。

音楽：(チム・チム・チェリー) (Chim Chim Cher-ee)

作詞/作曲：リチャード・M・シャーマン (Richard M. Sherman 1928-)

ロバート・B・シャーマン (Robert B. Sherman 1925-)

この映画のために作られた曲は 32 曲で、実際に使われたのは 14 曲だった。この曲を作曲したシャーマン兄弟は、1960 年代のスタジオを支える存在だった。彼らはスタジオのために 200 曲以上を作曲した。この曲は、公園でパート(ディック・ヴァン・ダイク Dick Van Dyke 1925-)が歌う曲でアカデミー主題歌賞を受賞した。

『ジャングル・ブック』(The Jungle Book) 1967 年制作 請求記号 VD1926

あらすじ: 難破した小船でジャングルに流れついた人間の赤ちゃんのモーグリは狼に育てられる。モーグリが 10 歳になったある日、人間嫌いのシア・カーンがジャングルに戻って来ると知り、森の動物たちは、モーグリを人間の村に返す事に決める。しかし、モーグリは楽しく暮らしてきたジャングルを出て人間の世界に戻るのを嫌がる。そしてモーグリの前に恐ろしいシア・カーンが現れる。

背景: ラディヤード・キプリング (Rudyard Kipling 1865-1936) の物語を原作にして、アニメ化した作品である。

音楽: (君のようになりたい) (I Wan'na Be Like You)

作詞/作曲: リチャード・M・シャーマン (Richard M. Sherman)

ロバート・B・シャーマン (Robert B. Sherman)

東京ディズニーランドのアトラクション「魅惑のチキルーム」で流れている曲として有名である。この曲もシャーマン兄弟によって作曲された。(小さな世界 It's a small world) も彼らが作曲した。

この作品を最後に 1966 年 12 月 15 日、ウォルトは 65 歳でこの世を去った。世界中のメディアが、ウォルトの死を報じ、人々は皆ショックを受けた。ウォルトの意志は、兄のロイやスタッフが受け継ぎ、今でもディズニーは発展し続けている。

ディズニーの音楽

ディズニー映画の魅力の一つとして音楽が考えられる。ディズニー映画は多くのアカデミー賞を受賞したが、その中でも音楽関連の部門においてもすばらしい成績を残している。世の中には、ディズニーアニメを見たことがなくても、〈星に願いを〉のメロディーは聞いたことがある、〈狼なんてこわくない〉がフランク・チャーチルによって作曲されたことを知らなくても、ディズニーの曲だということは知っているという人もいるだろう。ディズニーの音楽には、映画から独立しても、その音楽だけでしっかりとしたスタイルを持ち続けているという特徴がある。

ウォルト・ディズニーは、楽譜も読めなければ、楽器を演奏したこともなかった。しかし、歌と背景音楽の制作に積極的に関わった。ウォルトの指示があつてこそ、スタジオで働くスタッフも音楽家もより良い映画、音楽を作ることができたのである。ウォルトは映画の中でどのような音楽が必要なのか、どのような歌詞で、どのような声が必要なかを判断する特別な力を持っていた。『白雪姫』の制作中にウォルトは次のように語っている。

「音楽はもう少しよくなるだろう。われわれ独自の方式を作り出さなければならない。音楽は物語と一体になっているべきもので、突然誰かが歌いだすのではだめだ。」

(リストファー・フィンチ著『ディズニーの芸術』56頁)より

ウォルトの言葉によって、音楽は修正され、『白雪姫』が完成した時には、音楽と物語が見事に一体となっていた。このように、ウォルトは映画の中で音楽が重要な位置を占めると考えていた。セリフを少なくし、音楽を使ってそのシーンの雰囲気や、心情を表現したりした。場面転換の時などにもよく音楽を用いた。ウォルトは、音楽を言葉として捉えていたのである。音楽、セリフ、映像のすべてがバランスよく調和した時に、ディズニー映画は完璧な作品になるのである。

そして、ディズニー映画の中で使われた音楽は、シンプルで誰もが自然に口ずさめるものが多いように思う。近年、ディズニー映画の中で使われた音楽が色々な編成にアレンジされて聞けるようになった。パラパラやユーロビート、ジャズ、オルゴール調など曲風も多様化している。音楽が独立して、一定の人気を得ている部分もディズニー音楽にいえる特徴といえるだろう。

このようにディズニー映画において音楽は重要な役割をしている。音楽があつてこそ、ディズニー映画は人気を得ることができたのである。



終わりに

今回の展示では彼が生存中に手がけた主要な作品に焦点をあて、アニメーションと音楽について述べた。ウォルト・ディズニーほど、多くの作品を残した人物はいない。彼の初期の作品は短編アニメ映画が主流だった。そして、中期になると長編アニメ映画の制作をはじめ。後期は、アニメ映画を制作しつつ、テレビ界にも進出し、「ディズニーランド」の計画に没頭した。ディズニーの作品には、成功作と失敗作があるとされている。その時代や社会情勢などの様々な要因により、公開当時には人々に受け入れてもらえず批判されたり、採算が取れるまでに時間がかかったりする作品もあった。ディズニーアニメは、その時代によって様々な受け入れられ方をしてきた。しかし、いつの時代にも共通していえることがある。それは、子どもに限らず大人も一緒にディズニーアニメを楽しみ、また彼の死後も、ディズニー人気は衰えることを知らないということである。今でもディズニーという言葉で表現できるもの、映画、音楽、キャラクター、ディズニーランドは、一定の人気を得ている。そして、彼の跡を継いで、今も多くの人たちが夢を追い続け、良い作品を作ろうと努力している。

ウォルト・ディズニーの名はアメリカのみならず、日本でも人々に親しまれてきた。ミッキーマウスを生みの親、「ピノキオ」を制作した人、ディズニーランドを建設した人など。世界中で彼のことを知らない人はいないと言っても良いかもしれない。しかし、私は常々感じていることなのだが、彼がどのような人物だったかを本当に理解するのは実に難しいことだと思う。彼は自分の役割について次のように述べている。これは、ある小さな少年に「あなたの役割は何？」と聞かれて答えた言葉である。

「...私は自分が小さなミツバチみたいだと思う。スタジオの中をあちこち飛び回り、花粉を集めて、みんなに刺激を与える。それが私の仕事かな。」

(『ディズニー音楽大全集』の解説より)

ウォルトが自分をミツバチと表現しているように、彼は多くのアニメーター、作曲家、作家を監督することで自分の夢を実現した。「夢を実現するのは人だ」ということをよく理解していたのがウォルトだった。ウォルトは、大衆が何を望んでいるかを判断する能力を持っていた。そして、それを実現するために努力を惜しまなかった。彼がどのような人物かを最も端的に表しているのが、次の言葉だろう。これは、ウォルトが亡くなった時にエリック・セヴァレードが送った弔辞である。その言葉を引用して結びとしたい。

「彼は独創的な人物でした。単にアメリカ的な天才というのではなく、ただひとつ、天才そのものだったのです。ウォルト・ディズニーという人間が存在したのは幸運な偶然でした。今世紀に起こった最も幸運な偶然のひとつでした。.....人々は口々に言っています、ウォルト・ディズニーのような人間はもう二度と現われないだろう、と」

(グリーン夫妻著『魔法の仕掛け人 ウォルト・ディズニー』341-342頁)より



展示資料

図書

青木卓著『ディズニーランド裏舞台』 技術と人間 1993年 請求記号 J79-141

ディズニーで実際に仕事(美術の裏方など)をしていた著者が、ディズニーの裏側について書いた本。

有馬哲夫著『ディズニーとライバルたち』 フィルムアート社 2004年 請求記号 J102-251

アメリカのアニメーションの歴史を、ディズニーとそれを取り巻く人々がビジネスをめぐるどのように競い合い、影響し合ってきたかについて述べている。また、アニメーションがどのようにしてビジネスになったのか、それが歴史の上でどのように変化したのかについても論じている。

今村太平著『漫画映画論』 真善美社 1948年 請求記号 J73-675

映画評論家今村太平による日本初のアニメーション論。

エイドリアン・ベイリー著、玉置悦子訳『ウォルト・ディズニー・ファンタジーの世界』

講談社 1985年 請求記号 J64-537

大のディズニーファンである著者が、ディズニースタジオで2ヶ月間、資料調査をして書いた書物。図版も充実している。

榎田磐著『アニメ文化と子ども - ディズニーの真価がわかるあなたに - 』

日本図書刊行会 2001年 請求記号 J105-630

教育学的視点からディズニーのアニメーションについて論じている。アニメ創造の基本的課題、アニメ映画の現状についても論じられ、とくに『ファンタジア』について深く作品研究がなされている。

クリストファー・フィンチ著、前田三恵子訳『ディズニーの芸術』

講談社 2001年 請求記号 J105-544

ディズニースタジオの歴史について詳細に書かれている。ディズニーのアニメーションのはじまりから、ウォルトの死後の後継者による発展までを知ることができる。

David Tietzen, The Musical of World Walt Disney, ed., U.S.A.:Hal Leonard,1990 請求記号 C53-364

ディズニーの初期の作品から、どのようにして音楽が作られたか、どのようにエンターテインメントを作り出したかのかということについて詳しく書かれている。音楽的観点からディズニーについて論じている。

能登路雅子著『ディズニーランドという聖地』 岩波書店 1990年 請求記号 J105-499

カリフォルニアのディズニーランドが一体何なのか、ということについて書かれた書で、ディズニーランドの誕生から未来まで、アメリカ文化論を中心に考察したものである。

マーク・エリオット著『闇の王子ディズニー 上・下』

古賀林幸訳 草思社 1994年 請求記号 J105-421, J105-422

ウォルト・ディズニーの生涯について述べている。今までに出版されたウォルトの輝かしい人生に光をあてた書物とは異なり、反ユダヤ、反共産主義者としてのウォルトの姿を捉えている。アブ・アイワークスの遺族やストライキ事件の関係者など、ディズニー関係者に色々な取材をした上で書かれた書物。今まで明かされることになかったウォルトの影の部分にも焦点をあてている。

リッチ・ハミルトン著『ウォルト・ディズニーの成功のルール』

箱田忠昭訳 あさ出版 2005年 請求記号 J106-898

ディズニーの経営方針や様々な取り組みについて紹介し、ディズニーのように夢を叶えるための16のルールが書かれている。人々を夢中にさせるディズニーランドにはどのような秘密があるのか? 全米一のディズニー研究者である著者は、その秘密を自分の人生に応用させることによ

て、人生は変わるということを述べている。

楽譜

『シンデレラ』 ヤマハ音楽振興会 1992年 請求記号 F17-912

『シンデレラ』で使われている曲が収められている。あらずじと日本語の歌詞も載っている。『シンデレラ』の中の(夢はひそかに)、(ピピディ・パピディ・プー)はよく知られている。

『たのしく吹けるリコーダー・ソロ・ディズニー作品集』 ヤマハ音楽振興会 1999年 請求記号 H37-820
ディズニーの名曲をリコーダー用にアレンジした曲集。リコーダーの豆知識や取り扱い方法についても触れている。

『ディズニー・ソング大全集』 ヤマハ 1990年 請求記号 F16-321
ディズニー映画、ディズニーランドで使われた代表曲が収められている。

『ディズニー作品集』 ヤマハミュージックメディア 1999年 請求記号 G27-741
『3匹の子ブタ』から『101匹わんちゃん』までの映画の中で使われた曲が収められている。キャラクター紹介や映画の説明なども載っていて、内容も充実している。

『ディズニーパーフェクト・ソングブック』 ヤマハミュージックメディア 1999年 請求記号 F21-300
ディズニー映画、東京ディズニーランド、舞台作品など、239曲が収録されている。

『ディズニープリンセス』 ヤマハミュージックメディア 請求記号 G29-688
ディズニー映画に登場するプリンセス6人を取り上げて、そのテーマ音楽をピアノ用にアレンジした作品集。英語の歌詞も付いている。

『ピーター・パン』 ヤマハ音楽振興会 1992年 請求記号 F17-913
1953年に制作された『ピーター・パン』の中で使われた音楽を集めた曲集。(きみもとべるよ!)は、有名な曲である。

『不思議の国のアリス』 ヤマハ音楽振興会 1992年 請求記号 F17-915
『不思議の国のアリス』で使われている曲が収められている。『不思議の国のアリス』の中でも(きらめく昼下がりはよく知られている。

『メリー・ポピンズ』 ヤマハ音楽振興会 1992年 請求記号 F17-911
『メリー・ポピンズ』の中で使われた音楽を集めた曲集。この映画を見たことがなくても、(チム・チム・チェリー)は誰もが1度は聞いたことがある曲だろう。

その他の映像資料

『リトル・マーメイド』(The Little Mermaid)1989年制作 請求記号 VD1287

原作はアンデルセンの名作『人魚姫』。原作は悲劇で終わるがディズニーはハッピーエンドで終わる。海の王トリトンの娘であるアリエルは海の上の人間の世界に憧れる人魚姫。ハンサムな人間の王子エリックに恋に落ちたアリエルに、海の魔女は、アリエルの黄金のような声と引き換えに人間にしてあげようと言う。約束の3日間で王子の愛を勝ち取り、結婚する。

『ミッキーの王子と少年』(The Prince and the Pauper)1990年制作 請求記号 VD1984
原作はマーク・トウェインの『王子と乞食』。お城に迷い込んだ少年ミッキーは、自分にそっくりの

王子に出会う。毎日が退屈な王子は、ミッキーと服を交換してお城の外に出る。ミッキーはお城で新しい生活を送り、王子は普通の少年として町の生活を体験する。ところが、街ではお城の悪い衛兵が王子の名において数々の悪事を働いていた。悪い衛兵を退治した王子は、国を立派に治める。ミッキーやドナルド、グーフィー、ブルートなどのキャラクターも大活躍する。正義と友情をテーマにした作品である。

『美女と野獣』(Beauty and the Beast)1991年制作 請求記号 VD1792

魔法使いの手によって呪いをかけられ野獣の姿になった王子。魔法の花びらが散るまでに、王子が人を愛し、人から愛されなければ、永遠に醜い姿のまま。そんな野獣が住む古城にある村に住む美女のベルが迷い込む。そしてその美女のベルと出会った野獣は、人を愛する心を取り戻し、王子の姿に戻り、幸せに暮らした。ミュージカルにもなっている。

『アラジン』(Aladdin)1992年制作 請求記号 VD3345

貧しいが清い心を持ったアラジンと自由奔放な女王ジャスミンが出会い恋に落ちる。アラジンは魔法のランプを手に入れ、3つの願い事を叶えてくれる魔人のジーニーに出会う。王子に変身したアラジンは、王宮に行くが邪悪な右大臣ジャファーも魔法のランプを狙っていた。アラジンが恋を实らせるにはジャファーをやっつけなければならない。

『ライオン・キング』(The Lion King)1994年制作 請求記号 VD3509

ライオンのシンバの半生を描いた作品。ライオンのムファサは息子シンバに王になる心構えを説いていた。そんな中、ムサファはひそかに王の座を狙っているムファサの弟のスカーに殺されてしまう。大きくなったシンバは、スカーと対決し、勝利した後、立派な王になる。親孝行がメインテーマとなっている作品である。

『ファンタジア 2000』(Fantasia 2000)2000年制作 請求記号 VE653

1940年に制作された『ファンタジア』のリメイク版。新しく選曲された7曲と前作からの『魔法使いの弟子』を組み合わせた全8曲で構成されている。エルガーの『威風堂々』ではドナルド・ダックが新しいキャラクターとして登場する。

その他の参考資料 -----

- ・有馬哲夫著『ディズニーとは何か』NTT出版 2001年 請求記号 J106-640
- ・有馬哲夫著『ディズニーの魔法』新潮社 2003年 請求記号 受入中
- ・加賀見俊夫著『海を超える想像力 東京ディズニーリゾート誕生の物語』講談社 2003年 請求記号 受入中
- ・グリーン夫妻著、山口和代訳『魔法の仕掛け人 ウォルト・ディズニー』ほるぶ社 1994年 請求記号なし
- ・国際版『ディズニーおはなしだいすき 55話』講談社 1996年 請求記号なし
- ・デイブ・スミス/スティーブン・クラーク著、唐沢則幸訳『ディズニークロニクル 1901-2001』講談社 2001年 請求記号なし
- ・『ディズニーリゾート物語 1～30巻』講談社 2002～2003年 請求記号なし
- ・ポプトマス著、玉置悦子訳『ウォルト・ディズニー』講談社 1995年 請求記号なし
- ・ラッセル・シュローダー著、渡辺有希訳『Disney 夢と魔法の100年』世界文化社 2002年 請求記号なし
- ・ラッセル・シュローダー編、著田畑正儀訳『Walt Disney 伝記・映像の魔術師』徳間書店 1998年 請求記号なし



図書館展示 5月 2006

ウォルト・ディズニー
～アニメーションと音楽の世界～



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2006.5.15 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:高田涼子・三宅巖